

地域の救急を支え、安心して暮らせる街を目指して

たま病院ニュースレター

TAMA Hospital News Letter

2025
No.
49

川崎市立多摩病院 〒214-8525 川崎市多摩区宿河原1-30-37 TEL: 0570-028-111



見える幸せをいつまでも — 意外と知らない白内障と緑内障 —

眼科 部長 松澤 亜紀子

私たちの目は、年齢とともに少しずつ変化していきます。

「最近まぶしい」「文字がかすむ」と感じたら、それは“目からのサイン”かもしれません。

白内障は、目の中の水晶体という“レンズ”がにごってしまう病気です。誰でも年を重ねると少しずつ濁ってくるもので、80歳代では程度の差はあれ、ほぼ100%の方が白内障になります。かすんで見えたり、まぶしく感じたりしますが、手術でにごりを取りのぞくことで、明るい視界を取り戻すことができます。「目が白くなるのでは？」と聞かれることもありますが、外から白く見えるほどになるのはごく一部の方で、多くは徐々に見え方が変化するため、気が付かない場合もあります。

一方の緑内障は、視野が少しずつ欠けていく病気です。40歳以上の日本人では、およそ20人に1人がかかるといわれています。初めは自分では気づきにくく、知らないうちに進行していることもあります。「失明してしまうの？」と不安に思う方もいますが、早く見つけて治療を続ければ、進行をおさえることができます。どちらの病気も、早期発見が大切です。

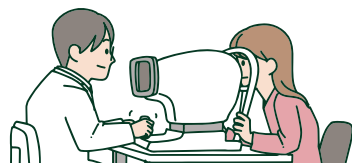
セルフチェックをしてみましょう！



- 最近、まぶしく感じるが増えた
- 目が疲れやすくなった
- メガネを変えても見え方がすっきりしない
- 夕方になると見えづらくなるが増えた
- 段差や階段で危ないと感じることがある
- 食事の時にテーブルを汚すことがたまにある



1つでも当てはまる場合には、早めに眼科で検診を受けてみましょう。
自分の目の状態を知ることが、“見える幸せ”を守る第一歩になります。



部門紹介

救急災害医療センター

救急災害医療センター センター長 田中 拓

救急医療は、地域に密着した医療です。そのため救急災害医療センターは、地域における様々な病気やケガに幅広く対応することが求められています。当院はいわゆる二次救急医療機関として救急医、内科医が中心となり、循環器内科、脳神経外科、小児科の各専門科の救急対応を、各診療科の医師や各部門の協力のもと診療に当たっています。地域の救急患者さんの窓口として、様々な症状についてまずは拝見し、重症度、緊急度をもとに診療内容を決定した上で、必要な処置を行います。

今後も、地域の皆さまに安心して受診していただける体制づくりを目指してまいります。

topic

災害訓練を行いました

災害・防火管理委員会
委員長 野村 悠

災害拠点病院である多摩病院では、年に1回の災害訓練を実施しています。今年度は10月4日(土)に開催し、病院長をはじめ総勢144名の職員が参加しました。災害時における被災地の病院として、地域に対する医療提供を行うためにはどのような工夫が必要か検討するよい機会となっています。

訓練の内容は以下のとおりです。



『災害対策本部運営訓練』

病院長を筆頭に災害対策本部を設置し、病院全体の「現状分析と課題の抽出」を行い、病院としての活動方針を決定する

『多数傷病者受け入れ・トリアージエリア運営訓練』

被災現場の患者さんを受け入れ、緊急性に合わせた優先順に沿って治療や転院搬送を行う

『各部署訓練』

これらの災害時医療を下支えするために必要な、院内各部署における災害時対応を確認する

また、訓練当日には、全職員を対象とした『安否確認・参集状況調査』を行いました。地震発生時には、職員・家族の安否確認をするだけでなく、緊急で病院に参集可能な職員数を把握し、地域への医療提供体制を整えます。訓練で100%完璧なものはありません。毎年度、病院の課題を見つけては改善策を探る、という作業を繰り返し、少しずつ成長しています。

毎年10月に「訓練」の看板を見かけたら、こんなことをしていますので、あたたかく見守ってください。

